

お民連

2026年1月22日発行

【8面オールカラー】発行部数2,900部

第321号

発行元／青森県民主医療機関連合会

所在地／〒030-0803 青森市安方1丁目11-6-1F

TEL. 017 (723) 4076

FAX. 017 (773) 5326

URL <https://aomin.jp/>

e-mail info@aomin.jp

「新しい戦前」に『あたらしい憲法のはなし』を



青森県民主医療機関連合会
会長 田代 実

新年あけましておめでとうござい
ます。昨年患者・利用者さん、
地域の人々の生活に寄り添い、人
権を守る医療、介護、福祉活動の
取り組みに努力されたすべての県
連職員に心から敬意を表します。

◆「戦後の終わり」と「新しい戦前」

ある雑誌に掲載されていたエッ
セイの一部を紹介します。

「戦後80年、日本は憲法9条を守っ
て、一人の戦死者も出さなかった。
しかし、2015年の安倍内閣の安
保法制で集団的自衛権を認め、岸田
内閣の安保三文書で敵基地攻撃のミ
サイル準備、そして武器輸出をする
に至り、『戦後は終わった』と言え
る。」(宮本憲一氏)

2015年の安倍政権による安
保法制強行以降、22年12月岸田政
権による安保三文書、さらに23年
には軍拡財源法、軍需産業支援法
が成立し、その後も経済秘密保護
法、能動的サイバー防御法、改定

地方自治法、改定国立大学法人
法、日本学術会議解法など国家
の統制を強め、学問の自由や地方
自治、市民の知る権利を制限する
法律が次々と成立しています。こ
の状況について、市民連合共同代
表の佐々木寛氏は次のように述べて
います。

「これらの法律は一見すると分野も
目的も異なるように見えるが、補
助線を引いて全体を俯瞰すれば、
社会全体を国の管理下に組み込
み、戦争を遂行できる体制を隅々
まで整えていくという一点で、す
べてが『戦争準備』に向かって一
本の線につながっています。」

2022年12月28日、「徹子の
部屋」に出演したタモリさんは、
「来年はどんな年になりますかね」と尋ねられ、「新しい戦前になる
んじゃないですかね」と答えまし
た。その後3年を経て、「新しい
戦前」が急速に進んでいると感じ
ます。これは本当に主権者国民が
望んだことなのでしょうか？

◆日本国憲法の平和条項はなぜ生 まれたか？

ここで、2022年の私の「新
年のあいさつ」で紹介した文章を
再掲します。

「日本国憲法が戦争の惨禍から生ま
れたことは、まぎれもない歴史的事
実です。戦争から抜け出した人たちが
が新たな国の形を得て、どれだけ

ほっとしたか。

(第二次世界大戦の死者は約5,000
万人、そのうち約2,000万人
がアジアの死者。うち約310万人
が日本人。残りの約1,700万人
が日本人以外のアジア人ということ
になる。)

ほんとうに、なぜだったのか。よき
息子、よき夫や父親だった男たちは
どうして1,700万人ものアジア
人を殺し、死に追いやることができ
たのか。唯一可能な答えは、戦争が
人間を変えた、ということしかない
でしょう。どんなによき人間でも徴
兵され、軍隊でしごかれ、戦場に連
れていかれると人が変わった、ある
いは変えられた、変わらざるを得な
かった。そして、その前にも後にも
決してしないような蛮行に突き進ん
でいった。戦争はもうこりこりだ、
と誰もが言いました。そのこりこり
のなかには、軍隊や戦争によって自
分が自分でなくなってしまう、どん
でもないことをしてしまった、とい
う元兵士たちの取り返しのつかない
悔恨、うしろめたさも確実に含まれ
ていたはずだ。

そうした全体を汲み上げて、われら
日本国民は「政府の行為によって再
び戦争の惨禍が起ることのないよう
にすることを決意し、ここに主権が
国民に存することを宣言し、この憲
法を確定する」という日本国憲法が
つくられた。それを具体化する条文
が第9条の一項「戦争の放棄」と二
項「戦力の不保持・交戦権の否認」
です。このため、この憲法は「平和
憲法」の別名を持つことになりま
す。」(2018年、吉岡忍氏)

↑2面につづく

青森県民主医療機関連合会第57期役員

役職名		氏名		職種	
会長	田代 実	医師			
副会長	伊藤 真裕	医師			
副会長	相馬 由美	医師			
事務局長	寺島 正志	看護師			
事務局長	古舘 正志	看護師			
理事	柳谷 円	事務			
理事	秋山 和範	事務			
理事	浅利 夏樹	事務			
理事	石田 晋吾	事務			
理事	石塚 理仁	事務			
理事	泉谷 雅人	事務			
理事	磯谷 寿人	事務			
理事	漆館 杏子	事務			
理事	小形 てる美	事務			
理事	奥瀬 昭彦	事務			
理事	小山内 海	事務			
理事	角田 尚樹	事務			
理事	加藤 恵子	事務			
理事	今 淳一	事務			
理事	境 剛志	事務			
理事	坂野 一郎	事務			
理事	佐々木 良範	事務			
理事	佐藤 真人	事務			
理事	須藤 尋	事務			
理事	関谷 修	事務			
理事	相馬 武	事務			
理事	田川 一仁	事務			
理事	竹内 千裕	事務			
理事	塚本 健洋	事務			
理事	対馬 康文	事務			
理事	富田 知子	事務			
理事	内藤 貴之	事務			
理事	鳴海 紀子	事務			
理事	西村 美和	事務			
理事	兵藤 尚子	事務			
理事	宮沢 守	事務			
理事	宮本 達也	事務			
理事	村上 渡	事務			
理事	八木 明子	事務			
理事	山崎 将仁	事務			
理事	荒木 英二	事務			
理事	菊池 中央	事務			
理事	工藤 敏子	事務			
会計監査					
会計監査					
会計監査					

日頃のご愛読・ご協力に感謝をこめて **抽選で22名にお年玉プレゼント** 応募は定期便・封書・FAXで！
応募用紙及び応募の詳細は本誌8面に掲載しています。抽選結果は次号(3月16日発行)に掲載予定。応募〆切／2026年2月13日

1等・2等は
うれしい
商品券！



(1面つづき)

「新しい戦前」が急速に進められる中で、日本国憲法の平和条項がなぜ生まれたか、一度、学び直すことが大切だと考えます。

◆「あたらしい憲法のはなし」(1947年)

『あたらしい憲法のはなし』は、1947年8月2日に当時の文部省が発行した中学1年用の社会科の教科書です(1952年3月まで使われていましたが同年4月から姿を消しました)。この第6章「戦争の放棄」には以下のように書かれています。

「いまや戦争は終わりました。二度とこんなおそろしい、かなしい思いをたたくないと思いませんか。戦争は人間をほろぼすことです。世の中の良いものをこわすことです。そこでこんどの憲法では、日本の国が、けっして二度と戦争をしないように、二つのことを決めました。その一つは、兵隊も軍艦も飛行機も、およそ戦争をするためのものは、いっさい持たないということです。これは戦力の放棄といえます。「放棄」とは「すててしまう」ということです。しかしみなさんは、けっして心ばそく思うことはありません。日本は正しいことを、ほかの国よりさきに行ったのです。世の中に、正しいことぐらい強いものはありません。もう一つは、よその国と争いごとがおこったとき、けっして戦争によって、相手をまかして、自分のいいぶんをとおそうとしないということをきめたのです。おだやかにそうだんをして、きまりをつけようというのです。なぜならば、いくさをするけることは、けっさくよく、じぶん

の国をほろぼすようなはめになるからです。これを戦争の放棄というのです。そうしてよその国となかよくして、世界中の国が、よい友だちになってくれるようにすれば、日本の国は、さかえてゆけるのです。みなさん、あのおそろしい戦争が、二度とおこらないように、また戦争を二度とおこさないようにいたしましょう。」

世界大戦のあと、戦争で酷い目に逢い、酷いことをした日本人々は、戦争の悔恨から新しい憲法を得て、次の時代をつくる子どもたちに『あたらしい憲法のはなし』を手渡しました。現在進んでいる「新しい戦前」を本物の戦中にしないために、私たち日本の主権者はどうすればいいのでしょうか?

綱領に「一切の戦争政策に反対」することを謳い、組織方針として「非戦」を掲げる青森県医連の職員一人ひとりが考え、自分の意思で自分らしく行動することを期待します。

長い長い文章を最後まで読んで下さり、ありがとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

◆「いまを職員に読んでほしいもの」

① 井上ひさしの「子どもにつたえる日本国憲法」(講談社、2006年)

② あたらしい憲法のはなし(童話屋、2001年)

③ 「世界は共鳴し合っている戦争のない国際社会実現」(民医連新聞2026年新春対談)



職員一丸となって取り組む署名活動

地域医療の崩壊をなんとかして くい止めるための緊急行動

株式会社ファルマでは、地域医療を守る取り組みの一環として、地域住民の医療を受ける権利を保障するために、医療機関の維持存続への支援を求める請願署名(国民署名)活動を進めています。管理者会議のメンバーを中心に職員一丸となって取り組み、当初の目標であった1,000筆を大きく上回り、12月17日時点では**1,737筆(達成率173.7%)**を集めることができました。現在は新たに**2,000筆**の署名目標を掲げています。

署名活動では、職員一人ひとりが家族や友人へ協力を依頼したほか、動画学習を通じて署名の必要性を理解しながら進めました。また、各薬局の待合室での呼びかけや、取引業者の皆様からのご協力も大きな力となりました。

今回初めての試みとして、弘前薬剤師会および青森県薬剤師会の理事会で説明の機会をいただき、署名の協力をいただきました。さらには、お薬の管理をさせていただいている各施設からも、職員・利用者の皆様より多くの署名を頂戴しております。

今後も職員一同が地域医療を自分事として捉え、より良い医療体制の実現に向けて署名活動を継続してまいります。

(株式会社ファルマ 取締役薬剤部長・ファルマ弘前薬局薬局長/相馬渉)

第54回 看護介護活動 交流集会

みんな違って、みんなよい、
互いに認め合い共生する社会を目指して



講師の古川さん

11月11日(火)アピオ青森にて開催し、86名が参加しました。

民医連の無差別平等の精神にもつながるメインテーマに即し、「LGBTQ理

解を深めよう・すべての人が自分らしく生きるため社会に向けて」と題して健生病院健診科長 古川智恵美さんに記念講演していただきました。アウティング(他者のセクシャリティを本人の了承得ずに第三者に告げてしまうこと)という言葉の意味、日常的なお笑いのネタなども本人を傷つけていることや生きづらさにつながっていることなど、とても勉強になりました。私たちができることはアライ(味方)になること、言葉の表現に気をつけること、奥さん・主人でなくパートナーと呼ぶなどすること、セクシュアリティや役割を決めないことなど行っていくことです。

小さな関心が生きづらさを軽くし、知ること・聞くことで人の心を軽くするということを、参加者が思い出し学習できたのではないかと感じました。

今回はポスターセッションを無くして口述を3つの分散に分け、21演題の発表と12名の講評が行われました。日頃実践されている看護・介護を発表し、質問・感想で交流ができ、そこで得た内容を現場での実践につなげていくことを願っております。

(看護介護学会小委員長)

生協さくら病院 総看護長/最上正一

県連職場管理者研修・職場管理補佐研修

職場管理者研修：10月7日(火)～8日(水) 浪岡中央公民館

76名参加

職場管理補佐研修：11月4日(火)～5日(水) 花岡農村環境改善センター 110名参加

2016年から3年間表記研修で講師をしていただいた、ひとづくり工房 esuco(えすこ) 代表の浦山絵里氏を再度お迎えし、計4日間開催いたしました。

今回は、ペアワーク・グループワーク・講義を通じて、「より良いチームづくりに活かす、安全で安心な語り場づくり」を体験し、職場で実践してもらうことを目標に、ファシリテーションを活かした参加型研修を体験していただきました。

両研修の獲得目標として、以下を設定しました。

職場管理者研修では「全員参加型の職場運営につながるコミュニケーションスキル(ファシリテーション)を学び、各現場でより良いチーム運営に向けて活かすところを考え、何かやってみる」。



講師の浦山絵里氏

職場管理補佐研修では「チームを推進するリーダーとしてのコミュニケーションスキル(ファシリテーション)を学び、現場チームに持ち帰りそれぞれができることを考え、何かやってみる」。

両研修ともに、既存の講

義スタイルにとらわれない研修のため、開始時は戸惑いなどがあり動きが硬かった参加者が、終了時には、心地よい疲労感と対照的な良い表情が見られたことが研修の収穫であったと感じました。

今回の研修を各職場に戻ってからいかに実践してもらうかがカギになりますので、今後の参加者からの研修後の実践報告が楽しみな4日間でした。

(県連教育委員長／

生協さくら病院 精神リハビリ科 科長／佐々木良範)



管理補佐研修の様子



えんたくんを使って



管理者研修の様子



第57期
青森県民医連

看護管理者研修

第57期第10回目となる県連看護管理者研修は
10月24日(金)に開催され、各事業所から30名の
看護管理者が参加しました。

研修にあたっての事前課題は、民医連の看護管理者が医療や介護を通して社会を変える視点を持つ事を再認識するため、市や県の議会傍聴を行いました。

研修当日の第1講座は、「明日をつむぐ民医連の看護」いのち・くらし、個人の尊厳をまもるケアの担い手として」熊本民医連看護介護部長 川上和美氏の講演から、民医連の歴史や熊本の水俣病への長年の取り組みを聞き、「何のために、誰のために」という視点から民医連看護を捉えなおす事が出来ました。

第2講座は、「コミュニケーション・オーガナジングから考える運動の作り方」一人一人がパワーの源！主体性を引き出すストーリーを語ろう」という内容で、コミュニケーション・オーガナジングジャンプの中村果南子氏から講演とワークショップを実施して頂きました。自身の価値観を見つめ、一緒に行動を起こす同志

は誰か、感情を介して地域や職場に伝える重要性和、一人ひとりの力は小さいが結集する事で大きな力になるという学びがありました。午後はグループ討議を行い、看護管理者として明日からどう行動するかを語り合い、元気をもらえた1日となりました。

(藤代健生病院

総看護長／鳴海由紀子)

ファルマ弘前薬局
事務

こがわ あおと
午年 古川 碧人さん

去年はとても体調をくずしやすい年でした。はじめての社会人生活なので、体調不良などがないよういつもより気を遣って生活していたのですが、1年間で体調を崩すことがかなり多く、自分は体調管理を全然できていないのだと痛感しました。

そのため生活習慣(特に食生活!)の改善や予防をしっかりとして、今年こそは健康的な1年を送りたいです。



健生病院
3階東病棟 看護師
そのもと みづき
午年 園元 美月さん

新人看護師としてももうすぐ1年になります。まだ分からないことだらけで皆様に迷惑をおかけしますが、分からないことは素直に聞き、基本を大切に安全第一で行動します。そして、心の栄養は推し活でしっかり補給し、仕事も推し活も全力で楽しみ、笑顔で乗り切る1年にします。



午年の
みなさん、
集合!



2025

全国青年ジャンボリー in 兵庫

今何しよう?会って話そうや

～6年ぶりの再会 県を超えて出会い仲間と笑顔で埋め尽くそう～

11月27日(木)～29日(土)、6年ぶりに第41回目となる全国青年ジャンボリーが兵庫県神戸市で開催され、全国から530人の仲間たちが集まりました。全国の仲間たちとの交流を図るほか、前兵庫民医連事務局長の東郷泰三氏による「阪神淡路大震災と民医連の災害支援」の講演や全日本民医連MMAT委員会の下林孝好氏によるグループワーク、神戸～三宮間のフィールドワーク、人と防災未来センターへの訪問が行われました。青森からは一般参加8名、事務局1名、実行委員1名の計10名が参加しました。

阪神淡路大震災の時間で
止まった時計



港に残る震災の爪痕



実行委員による晩御飯での余興



ステージに登壇した実行委員のみなさん

他県の職員との交流ももちろん新鮮で楽しめましたが、青森県連のメンバーとの交流も深まり充実した3日間でした。元々ほぼ面識のないメンバーで、神戸に到着してからほとんど会話もなくなかなか盛り上がりず、気まずい雰囲気でした。

しかし初日の夜、青森県連の皆で部屋に集まってお酒を飲みながら、どうだったか、それぞれ働いてる所はどんな所かなど話そううちに、気兼ねなく色々話せるようになりました。帰る日には皆で冗談を言いながら歩けるくらいには距離が縮まり、貴重な経験ができたと思いました。また機会があれば参加したいと思います。 全国ジャンボリー青森県連団長/生協さくら病院 1病棟/「ぼーちゃん」鈴木宏汰

阪神淡路大震災の被害を実際に残されたものに触れながら学ぶことで、災害とは回避できないものであるからこそ日頃からの備えが大切なのだと感じました。

健生病院 4階西病棟/「釣り人」須藤藤

参加するのは今回が初めてでした。人と未来防災センターにて阪神淡路大震災当時の資料や被災者の方々のお話を聴き、衝撃を受けました。震災はいつ自分の近くで起こるか予測することはできないため、いつでも逃げられるような環境や意識をもち周りに呼び掛け、災害が起きた際は現場に駆け付け自分のできる支援をしていきたいと感じました。

あおもり協立病院

リハビリテーション科/「キャベツ」成田海

全国から集まった民医連の仲間たちと共に、災害医療について学習しながら神戸の街を楽しむことができました。また機会があれば参加したいです。

ファルマ弘前薬局/「あおちゃん」下山蒼生

全国事務局として開催まで取り組んできた時間や経験思いは、文章に表せない程自分にとって本当に大切な物となりました。開催まで沢山のご支援ありがとうございました。今後もジャンボリー活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

全国ジャンボリー地協代表事務局/ショートステイ虹の郷/「レジェンド」対馬周也



今年で発生から30年となる阪神淡路大震災について学んできました。人々の記憶から消えないように神戸の街の至る所に震災の痕跡が残されていた様子が印象的でした。特に時計が地震の発生時刻で止まったままの状態で公園にあったことが今でも鮮明に覚えています。

健生病院 臨床工学科/「王林」小田桐采未

今回参加して、民医連の活動が日本全体の医療や福祉に貢献している事や、自然災害の怖さ、その知識を身に着ける必要がある事を学びました。

学んだ知識や経験を日々の業務や生活に生かしていきたいです。ヘルパーステーションはるかせ/

「おかっぱり」太田裕



韓国グリーン病院の方々と
班の集合写真

神戸には震災当時のまま残されているものが沢山あります。それらを目の当たりにし、自分がそこにいたら何ができるのか、知見が深まる3日間でした。

改めて、忙しい中送り出してくれた事業所や法人、支援してくださった方々、学ぶ機会をくださった方々へ、ありがとうございました。

自立訓練所ほのぼの寮/「りょうちゃん」坂東諒樹

私は全国実行委員として参加しました。開会式では司会を務め、緊張はしましたが仲間と協力して原稿の修正や本番の流れを何度も確認して、成功することができました。

今回の経験を糧にして、今後の民医連の活動に活かしていきたいと思っています。

全国ジャンボリー実行委員/県連ジャンボリー委員長/あおもり協立病院リハビリテーション科/「ピカソ」成田雄一郎

※「内はジャンボリーネーム

青森保健生協
組織部 事務

かさいりょうと
午年 葛西 玲斗さん

入職二年目、趣味に注力する一年にしたいです。大学卒業以来ホコリを被っていたピアノを叩き起こし、バドミントンで気持ち良く汗と涙を流します。ずっと夢だった楽曲製作にもチャレンジしたいです。日々の業務にも少しずつ慣れてきました。2026年は時間を効率的に使い、仕事と趣味の両立で心身ともに充実させます！



生活介護事業所「花東」
生活支援員

はしもと あやこ
午年 橋本 亜矢子さん

今年の抱負は、生活介護のサービスとして、利用者さまの高齢化を意識し、一人ひとりの体調や生活の変化に寄り添った支援を大切にしていきたいです。職員との連携も深め、安心して過ごせる環境作りと支援をしていきたいと思っています。



第3クールは11月20日(木)～21日(金)
東京都にて開催されました。

増田剛会長の学習講演では、「Think globally, act locally」の視点から、営利優先で制度が進められることで弱い立場の人が犠牲となり、十分な議論を欠いた少数意見による政策決定が社会の分断を深めている現状を改めて認識しました。防衛費増額や武器輸出解禁といった国の進路を左右する重大政策が、国会審議を経ずに進められている問題にも触れ、制度のゆがみに気づくためには私たち自身が継続的に学ぶ姿勢が不可欠であると痛感しました。また、社会保障を削って防衛費を優先する政策は一部の豊かさしか生まず、医療の市場化は弱者を取り残す危険があり、社会保障は不断の努力で守るべき「権利」であるという認識を持ちました。

地協ごとの取り組み報告企画では、無理解や誤解が人権軽視につながる点が共通の課題として明らかにになり、正しい情報の共有・発信の仕組みづくりの重要性を実感しました。また、行政にとって不都合な事実が公表されにくいという課題も確認できました。

全3クールでの学習やフィールドワーク・アクションプラン作成を通してさまざまな意見に触れながら課題理解が深まり、個人や地域で実践可能な行動を考える力が養われるセミナーでした。

(青森民医連／端村由貴人)



2025年度 第25回青森県高齢者大会

まちから村からの連帯で一人ぼっちの高齢者をなくそう
～分断・対立から共感・連帯へ 築こう平和と人の尊厳～

11月22日(土) リンクステーションホール青森にて開催され、
県内各地から228人が参加しました

本大会主催者の青森県高齢期運動連絡会は、県内の高齢者が平和で豊かに暮らせる社会をめざすために、諸要求の実現を目指して全国の仲間と連帯した運動を行っています。当連絡会には津軽保健生協・青森保健生協・八戸医療生協はじめその他12の民主団体が加盟し、毎年11月に本大会を開催しています。大会の1年前より会場の確保を行い、4月より大会プログラムの検討が始まります。参加される方々はほぼ高齢者のため、時期・時間帯・内容についてはいつも頭を悩ませています。

今回の記念講演は、日本が戦後・被爆80年の節目の年を迎えるにあたり、平和についてフリージャーナリストの布施

祐仁氏に最近の情勢も含めて「戦後80年 不戦の誓いを新たに～亡国の大軍拡から憲法活かし平和外交へ転換へ～」と題して講演を頂きました。午後は初の試みとなる県内の伝統芸能を3つ(八戸：鮫神楽、青森：ねぶたばやし、黒石：黒石よされ) 集め交流をしました。

午前は学習、午後は楽しい企画となり、アンケートでは9割以上が「とてもよかった」との感想が寄せられました。高齢者大会は、自分たちの要求だけではなく国民的な要求運動を取り上げ、「学び」「実践を交流」する場として発展しており、参加者は毎年楽しみにしています。

(津軽保健生協 組織部部長／八島将仁)



いのちのとりで裁判 「仙台高裁」勝訴

12月3日(水)に歴史的瞬間は訪れた。
仙台高裁の判決は青森側の勝訴となった。

いのちのとりで裁判が始まり約10年が経過しました。この間に原告側で亡くなられた方もおり、無念を晴らす結果となりました。これまで全国での高裁判決は割れていて動向が注視されていましたが、大きく流れが変わることとなったのは6月27日(金)。進行が早かった愛知・大阪が原告となった最高裁での勝訴判決が決定的となりました。この裁判は、「コフレ調整」「ゆがみ調整」という2つの理由から生活保護の基準を引き下げ減額としたのは正当性がなく違法だと国と争ってきた。減額は当時の額で平均6・5%の引き下げが行われました。これを現在の青森市の生活扶助費(*)で計算してみます。月約69,000円から6・5%引き下げとなると4,485円の減額となります。恐らく働いている一般の世代からすると「4,485円程度で大きな」と思うかもしれません。しかし、よく考えてみてください。そもそも減額される前の今の生活扶助費分で光熱費・食費・雑費を含めて月約69,000円で、精神的に豊かな人間らしい最低限度の生活を送ることができるといえるでしょうか。

冬になると、豪雪地帯の青森は暖をとるために光熱費も膨らみやすいです。さらには、ここ数年で追い打ちをかけているように物価高騰も続いている中で、甚だ疑問を感じます。国側で考えている一般的な基準や感覚は、国民の感覚とは乖離しているように思います。一刻も早く正しい政策が行われるよう心から願います。

(青森保健生協)

組織部／山田亮門)

*一人暮らしを想定。年齢等条件により異なるため一例。



小規模多機能ホームみなみいけの家
介護福祉士

やまざき ようこ
午年 山崎 陽子さん

今年は60年に一度の丙午(ひのえうま)の年だそうです。午年は「行動力」「挑戦」「前進」のイメージとの事。丙午ですらに勢いもあり、新たな事への挑戦をしようと思います。ちなみに、私の家族は、祖父・父・私と三代で午年で縁起がよいそうです！



地域活動支援センター八甲
相談支援専門員

ひらの ちよの
午年 平野 千代野さん

入職して約5年半が過ぎました。これまでの経験値に民医連の考え方をプラスし、馬のように駆け抜けてきました。これからも地域で暮らす方々の生活にいろどりを加えていけるよう寄り添い、笑顔を送るす1年にしたいと思います！また、今年も推し活を楽しみ、積読された本たちを読んで、こころをもっと豊かにしていきたいです！



介護事業所交流集会

2025年11月17(月)～18日(火)
青森県青森市アウガにて開催し、
69名が参加しました。

1 日目の全日本民医連副会長 伊藤真弘氏による「健康の社会的決定要因 (SDH) ・ヘルスプロモーションとケアの倫理」に関しての基調講演では、民医連綱領と世界の健康権保証・ケアとケアの倫理・政治課題としてのケアの倫理等を学びました。また指定報告では、雪害に対する BCP (*) ・訪問介護の現状と人材確保・経営改善・生産性向上・介護ウェブの取り組み等の報告がありました。



講師の伊藤先生



2日目は、1日目の報告をテーマとし感想や学びを共有するとともに、各事業所の取り組みや課題を共有しあい、課題に関して検討し、目標を見出すことができ、有意義なグループワークを実施することができたと思います。

次回開催は宮城県になります。また皆さんと会うことを楽しみにしております。

(健牛クリニック 管理看護長／須藤尋顕)

*BCP：「Business Continuity Plan」の略で、自然災害・感染症などの緊急事態に直面した際に、事業を継続するための具体的な手順や方針を定めた計画のこと。

2025
年度

北海道・東北地協 SW 活動交流集会

『災害支援とソーシャルワーク』 ～民医連 SW と一緒にできることを考えよう～

11月13日(木)～11月14日(金) 秋田県のあきた芸術劇場ミルハスにて開催され、総勢35名が参加、青森県からは3名が参加しました。

1日目は、群馬リハビリテーション病院の地域連携室室長小川晋平氏をお招きし、「災害支援とソーシャルワーク」についてご講演いただきました。講演を聞くまでは、自分に災害支援が出来るだろうかと不安を感じることもありましたが、お話を聞くことで、普段SWとして行っていることが現場でも活かせるということ、出来ることから一つずつで良いことがわかりました。

2日目の指定報告では、福島県から「福島のスーシャルワーカーの役割」について、宮城県から「被災者支援の継承」について、北海道から「復旧・復興の災害サイクル（慢性期）におけるソー



「シャルワークに関する報告」についてお話がありました。東日本大震災等を経験し、様々な支援活動を行ってきたことの報告や、能登半島地震において実際に支援を行った時の状況について学ぶことが出来ました。

支援の経過やその時の状況を事例集や写真・動画などに残し、次世代につなげていくことの大切さや、民医連SWとして横のつながりを大切にしていくことの必要性、そして被災した当初だけではなく継続して関わっていくことの重要性を改めて学ぶ機会となりました。

（障がい者生活支援センター「すみれ」／宮本奈津絵）



津軽保健生協
総務部 事務

こむらりつこ
午年 古村 律子さん



いつの間にか人生4回目の年女となっていました。子供のころにイメージしていた「とりといた大人」には程遠い毎日を送っています。総務部に所属して早10年。いつも職場の皆さんに助けられ、まだまだ毎日が勉強の日々です。毎日バタバタと過ごしているため、もう少し落ち着いて仕事に取り組めるように心がけたと思います。今年は数年ぶりに計画している家族旅行を楽しみにしつつ、仕事は業務改善をみんなで進めながら頑張っていきたいと思います。

あおもり協立病院
健診科 事務

としま よう こ
遠島 洋子 さん



24歳で入職してから数えると、人生のちょうど半分の月日が流れました。子供達が大きくなった今は、時の流れは少し遅やかです。今年は1月に長女が成人式、二女と長男は4月から受験シーズン突入。3年前以来2度目のダブル受験です。子供達のベストパフォーマンスを願い、笑顔あふれるホッとできる空間づくりと美味しいご飯作りに専念する1年にします。

*** 合格祈願 ***

来年度の青森民医連・医師入職予定者6人へ 「合格リンゴ」を送りました



青森民医連弘前事務所では、毎年「合格リンゴ」を作成し、国家試験に臨む医学科6年生と入学試験を控えた高校生に送っています。

健生病院は来年度6名の医師が入職予定となっています。何よりもまず2月の国家試験を突破してもらうことが大切になるので、担当者からのメッセージを同封して一人一人に渡しています。

また、各事業所での医師体験や受験相談会に参加した県内の高校生77人にも届けています。こちらは担当者だけでなく、医学生からの応援メッセージも添えて送付しています。

応援メッセージを書ってくれた1年生の奨学生からは、「私も昨年、このリンゴをもらって受験を頑張ることができた」「リンゴも応援メッセージもお守りだと思って大切にしたい」「ぜひ今回の受験生にも頑張ってもらいたい」といった声が出されました。

様々な取り組みが重なり合うことで医学生との関わりが強いものになり、高学年での入職や低学年での奨学生誕生につながるのだと実感できる「合格リンゴ」になっています。
(青森民医連／原圭輔)



2026年1月 1月 第57期第21回理事会報告

- >> 1. 会長あいさつ
- >> 2. 全日本民医連理事会報告関係
- >> 3. 決裁・承認事項
 - (1) 各種委員会から
- >> 4. 協議事項
 - (1) 八戸医療生協所長配置について
 - (2) 医科法人11月経営報告
 - (3) 医科法人2025年度上半期決算所見
 - (4) 全日本民医連総会
 - (5) 青森県民医連総会 理事について
 - (6) 全日本民医連47期会計年度の会費について
 - (7) 地域医療まもれ 議会請願・陳情状況
 - (8) 全国青年ジャンボリー in 兵庫 決算書
 - (9) 全日本・地協関係(会議、研修等) 確認
- >> 5. 医師・医学生関連
- >> 6. 報告事項
 - (1) 全日本・地協関係(会議、研修等) 報告
 - (2) 全日本民医連通達・声明、地協関係
 - (3) 地協
 - (4) 県連・共闘関係
- >> 7. 各法人・事業所から

あなたと民医連をつなぐ月刊誌

いつでも元気

MIN-IREN

2026 2月号 380円 好評発売中

日本軍の住民虐殺 久米島

けんこう教室 糖尿病の予防と治療

いのちの水が危ない 熊本

民医連の理念 ここに 岩手

まちのチカラ 愛媛県愛南町

食と健康 家計お助けレシピ

発行＝保健医療研究所 〒113-0034 東京都文京区湯島2-4-4 平和と労働センター6階 電話 03(5842)5656 FAX 03(5842)5657

県連事務局人事往来

2025年7月24日、青森県民医連は創立70周年を迎えました。また、戦後80年のいま、あらためて民医連綱領と日本国憲法に立脚し、高い倫理観と変革の視点を育む職員育成を進め、患者・利用者一人ひとりの尊厳を守る医療・介護・福祉の実践に取り組む、困難な経営課題を突破して、新自由主義を克服する運動を進めることが求められてきました。



県連在職中は、多くの方に支えていただきましたが、ほとんどの方に挨拶できておりませんので、この場でお礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

つしま やすふみ (青森事務所)
帰任 **対馬 康文** ⇒社会福祉法人虹) 1/1 付

2026年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙

今年は午年🐎 午年は物事が「ウマくいく」「飛躍する」「活力がみなぎる」年と言われ、エネルギーと行動力が高まる年とされています。特に2026年の丙午（ひのえうま）は開運を引き寄せる年とされ、積極的な挑戦やスピーディーな決断が成功を引き寄せると考えられています。

そこで今回のお題は…『今年挑戦してみたいことは何ですか？』



例：「一人旅をしたい」：自分のペースで楽しむ年にしたいから
 「毎日職場の全員と言葉を交わす」：ケアの倫理Caféの実践をしたい



理由：

応募の詳細は8面をご覧ください。

うちの メコッコ

vol. 88

♥ name

大桜（たお）くん
オス

♥ age

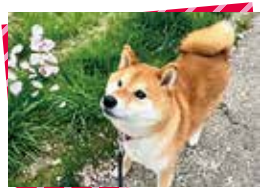
5 歳

我が家の柴犬・大桜（たお）を紹介します。
子どもたちと一緒に成長してきた先住犬が
14歳で旅立ち、深く落ち込んでいた私に「また
犬を迎えよう」と背中を押してくれたのが娘
でした。こうして家族になったのが大桜です。



名前には、桜のようにみんなに愛され、元
気に大きく育ててほしいという願いを込めました。

子犬の頃はやんちゃで、夜泣きをしたり壁を壊したりと大変
でしたが、今では人も犬も大好きな温厚な性格で、色んな出会
いを作ってくれます。表情がとても豊かで、考えていることが
すぐ顔に出るのも柴犬らしいところ。ほどよい“柴距離”を大
切にするツンデレさんです。



寒くなると夜中に布団へ入ってき
て、鼻で顔をツンツン。場所を決め
ると満足そうに丸くなりますが、撫
ですぎると小さく唸って抗議しま
す。暑くなると出ていき、寒くな
るとまた戻ってくる——そんなやり取

りも愛おしい日常です。この時期は授乳中のママたちと同じリ
ズムで夜を過ごしてます（笑）。

距離感を守れない2歳の孫にも、吠えることなくお兄ちゃん
のように接する姿に胸が温かくなります。大桜といると、自然と
心が穏やかになるのが不思議です。これからも一緒に、ゆっく
り歳を重ねていこうね。（健生病院 4階西病棟／福士真都美）

私の三つ星★★★★

八戸の日曜日の朝を彩る『館鼻岸壁朝市』

八戸の週末を元気にしてくれる「館鼻
岸壁朝市」。毎週日曜の早朝、約800
メートルの岸壁にずらりと露店が並び、
まだ薄暗い港が一気に賑やかになります。

名物の「しおてば」は早朝5時には行
列ができる人気ぶり。揚げたてのカリッ
とした衣とジューシーな味わいは、早起
きのご褒美です。他にも八戸名物せんべ
い汁や青森の食材を使った焼き小籠包、
イカ焼き、ウニおにぎり等朝から“フル
コース”が楽し
めます。新鮮な海産物や野菜、八戸の有
名店の焼きたてパンに雑貨など土産探
しにぴったりです。

震災で大きな被害を受けた朝市です
が、市民や出店者の思いに支えられ復活
し、今では「地域の元気」を象徴する場所
になりました。賑わう朝市の風景は、八
戸の力強さと温かさを感じさせてくれま
す。少し早起きして、港の活気を味わっ
てみませんか？

館鼻岸壁朝市 青森県八戸市新湊三丁目

毎週日曜日（3月中旬～12月）夜明け～午前9時

・自動車：八戸自動車道八戸ICから20分、八戸駅から25分、八
戸市中心街から10分

・鉄 道：JR八戸線陸奥湊駅から徒歩10分

（あけぼの薬局八戸店／田中由美子）



館鼻朝市風景



館鼻朝市遠景



しおてば



炉端焼き

日頃のご愛読・ご協力に感謝をこめて／定期便で応募できます／

抽選で22名にお年玉プレゼント

1等(2名)商品券3,000円分 2等(5名)商品券1,000円分 3等(15名)QUOカード500円分

下の応募用紙を切り取り、必要事項を記入して定期便、FAX、封書にて青森民医連青森事務所までお送りください。
当選者の発表は3月号（3/16 発行予定）に掲載いたします。

【注意】 郵送する場合は事業所の封筒や切手の利用はご遠慮ください。

FAXの場合は必ず両面をお送りください。また、送信前に宛先番号のご確認をお願いいたします。

2026年 お年玉 AOMORI MIN-IREN 応募用紙



機関紙「あomoriminyren」

お年玉プレゼント 係

必ず、下記と7面の記入も忘れずにご記入ください。

事業所名

ふりがな

所属部署

お名前



応募締め切り／2026年2月13日（金）必着 定期便・封書・FAX（017-773-5326）にてご応募ください。